

1. 日本癌治療学会用語委員会より、脳腫瘍治療の際に用いる生存期間と化学療法に関する用語についてのお知らせが届きました。

(1) 生存期間に関する用語の使い方

主要なものは日本脳神経外科学会用語集改訂版(2006年春刊行予定)に収載されます。

和名	英名	起算日	イベント	打ち切り(打ち切り日)	備考
生存期間、全生存期間	overall survival	登録日	全死亡	生存(最終生存確認日)	
無増悪生存期間	progression-free survival	登録日または治療開始日	全死亡、増悪	増悪無く生存(最終無増悪生存確認日)	
無再発生存期間	relapse-free survival	登録日または手術日	全死亡、再発	再発無く生存(最終無再発生存確認日または最終生存確認日)	
無病生存期間	disease-free survival	登録日または手術日	全死亡、再発	再発無く生存(最終無再発生存確認日または最終生存確認日)	無再発生存期間と同じ意味
			全死亡、再発、二次がん	再発無く二次がんも無く生存(最終無病生存確認日または最終生存確認日)	乳がんの術後補助療法の試験等で用いられる
治療成功期間	time to treatment failure	登録日または治療開始日	全死亡、増悪、治療中止	治療中または治療終了後、増悪無く生存(最終無増悪確認日)	白血病領域では event-free survival
奏効期間、効果持続期間	response duration	CR または PR が得られた日	全死亡、増悪	増悪無く生存(最終無増悪生存確認日)	対象は奏効例(CR+PR)
著効期間、完全奏効期間	complete response duration	CR が得られた日	全死亡、再発	増悪無く生存(最終無増悪生存確認日)	対象は CR 例。CR 例の無再発生存期間と同じ

注1. 悪性グリオーマ等では無増悪生存期間 progression-free survival を用いる。

注2. Germinoma に限っては無再発あるいは無病生存期間を用いる事が出来る。

(2)悪性脳腫瘍治療における化学療法に関する用語の使い方

1)補助化学療法(adjuvant chemotherapy)

今時的な手術ないし放射線治療に伴う化学療法で、通常、手術ないし放射線治療の後に行なわれる化学療法を指す。癌が全摘出あるいは消失している状態で再発を阻止する目的で用いる。維持化学療法も同様に“CR”を維持する意味である。従ってこの両者は悪性脳腫瘍治療において用いられない。悪性脳腫瘍のように手術・放射線治療後残存腫瘍(マイクロレベルも含めて)に対して化学療法を継続する場合は、「放射線治療終了後化学療法を2ヶ月毎に2年間継続する」と表現する。“補助”や“維持”などの形容詞は付けない。

2)Neoadjuvant chemotherapy

Neoadjuvant chemotherapy は姑息的な手術または放射線治療の際に本用語を用いるもので、その用途に応じて“術前化学療法”あるいは“導入化学療法”と訳す。